

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 7 月 10 日

評価対象事業	都政	-	12	古都中心市街地整備事業				☐ 法定受託事務	
所管課	都市政策部 市街地課				評価者	市街地課長 安齊 康広			
一般	会計	款	45	項	20	目	5		
総合計画上の位置付け	分野名	市街地整備			施策の方針名		市街地整備の推進		

1 事業の目的

対象	市民等	意図	豊かな歴史的遺産と良好な自然環境を活かし、市民・来訪者が快適に共存できる風格と活力ある古都鎌倉の顔を再生・創造するため。
効果	鎌倉駅周辺地域を中心とする古都中心市街地のまちづくりについて、目標や課題を共有し、多くの市民・来訪者が快適に共存できる魅力的な空間の創出に向けた検討を進める。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	技術アドバイザーへの相談、鎌倉駅西口時計台広場における清掃活動、開発事業時の協議まちづくりについて関係者との意見交換	技術アドバイザーへの相談、鎌倉駅西口時計台広場における清掃活動、開発事業時の協議まちづくりについて関係者との意見交換	技術アドバイザーへの相談、鎌倉駅西口時計台広場における清掃活動、開発事業時の協議まちづくりについて関係者との意見交換
予算額（千円）	89	89	
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	89	89	0
当初人員配置数	1.3	1.0	0.0
人件費（千円）	11,098	8,826	0
事業実績	鎌倉駅西口時計台広場における清掃活動、開発事業時の協議		
決算額（千円）	16		
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	16	0	0
人員配置実績数	1.3	0.0	0.0
人件費（千円）	10,768	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
						（上段実績、下段経費（千円））		
活1	指標名	鎌倉駅周辺における一定規模以上の開発事業の際に事業者等への指導・協議の回数	回	4	⇒	3		
	実績につながる活動	事業者等への指導を行った				0		
活2	指標名	鎌倉駅西口時計台広場における清掃活動の回数	回	12	⇒	11		
	実績につながる活動	鎌倉駅西口時計台広場における清掃活動を鎌倉市観光協会と行った				89		
活3	指標名	今後のまちづくりについて関係者との意見交換回数	回	2	⇒	0		
	実績につながる活動	問題点や課題の把握				-		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・ 鎌倉駅周辺における一定規模以上の開発事業の件数 ・ 悪天候による中止
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・ 一定規模以上の開発事業を実施する事業者等に対し、まちづくり空地の設置指導を行っている。 ・ 鎌倉市観光協会と合同で月に1度清掃活動を実施することで、時計台広場の美観が保たれている。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	一定規模以上の開発事業に対して、古都中心市街地まちづくり構想等に基づき、歩行者空間の確保等の協議を行い、協議内容どおりに開発事業が行われた割合	%	100	⇒	-			1
成2	広場での禁止行為（スケボー、エサやり、駐輪、喫煙）を見たことがあるかとの問いに「見たことはない」と答えた人の割合	%	50	↗	50			2

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・ 実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・ 令和7年度は指導及び協議を行ったが、完了に至った開発事業がないため、評価不可。 ・ 禁止行為を見たことはないと答えた人は半数であり、貼り紙による注意喚起の効果があると評価できる。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	・ 令和7年度は完了に至った開発事業がないため、評価不可。 ・ 鎌倉市観光協会との合同の清掃活動の際に、情報交換や課題の共有を併せて行うことは、時計台広場の美観維持に寄与している。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
	公平性	関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性		評価実施年度の方向性	⇒ 評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り	☒ ① 事業内容は現状通りとする		
		☐ 事業内容は見直し済	⇒ ☐ ② 事業内容は見直す	☐ 拡大	☐ 縮小 ☐ その他
		☐ 事業を休止又は廃止済	☐ ③ 事業は休止又は廃止する		
		☐ 他事業と統合済	☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する	→	事業へ統合
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持	☒ ④ 予算規模は現状維持とする		
		☐ 予算規模は拡大済	⇒ ☐ ⑤ 予算規模は拡大する		
		☐ 予算規模を縮小済	☐ ⑥ 予算規模は縮小する		

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評		・「古都中心市街地まちづくり構想」等に基づき、地区内の開発事業に対して指導や助言等を引き続き行い、歩行空間の確保等に努めていく。 ・鎌倉駅西口時計台広場における清掃活動を引き続き実施する。		
				上位施策への寄与度	
			B		

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方		鎌倉駅周辺におけるまちづくりに関する事業であることから、他市との比較は不可能。							